

### C.地上部の管理

- ①植木屋さん依頼して枯れた小枝を除去して下さい。(急ぎます)  
一旦、枯れた部分を取り除いてここからが、経過観察のスタートとなります。
- ②剪定を本年度は休んで下さい。(年間2回とも)  
葉を繁らして養分蓄積を行います。但し、冬場に古葉は除去して下さい。
- ③支柱について  
状況により、支柱はやり替えていただく事になるかも知れませんが、今はそのままにしておいてください。経過を見て決定します。

### D.松枯れ予防対策

衰退したマツは、病害虫が発生し易くなります。よく観察をして何か異常があればすぐ情報連絡ください。

#### ①マツ材線虫病対策

マツ材線虫病(一般呼称・松くい虫)の被害からマツを護るために、マツノマダラカミキリの防除対策として殺虫剤(マツグリーン液剤Ⅱ等の登録農薬)を散布してください。散布時期と方法は資料を添付します。近隣の発生状況を見て被害が多い様であればマツノザイセンチュウ対策「樹幹注入」も検討してください。

### E.その他の処置Ⅰ

針金の巻き込み部は、マツがある程度樹勢回復した時点で、1箇所のみ切り離しのため縦方向に切除します。

むやみに取り除こうと外科処置をすると腐朽を招いたりして逆にダメージを与えますので処置の有無も含め慎重に行います。

### F. その他の処置Ⅱ

その場で排水対策をする場合と、一旦掘上げて高植する場合とで施工方法、施工範囲が異なりますが、自然界でマツが岩の上でも生き続けている原理を活用した菌根菌とマツの根と共生する「菌根菌接種工法」があります。この自然循環の方法により環境の変化に強いマツに育ちます。

又、割竹などの天然資材を使った通気通水管を複数箇所埋設する方法「割竹埋設工法」も将来根を広範囲に伸ばしていける改善策となります。

C・D・E以外のこれらの処置、対策方法については、水位の変化、地上部の変化を毎月連絡いただき、衰退主要因が判明した時点で改めて詳細再提案します。それまでは、植木屋さんの出来る範囲の処置とし、見守り続けながら経過観察とします。

## 1. まとめ

今回は短時間の滞在でしたので十分な調査ではありませんが、マツの樹勢衰退要因の概要が見えてきました。

簡易調査の結果複数の健全成長阻害要因があります。衰退要因については上述したとおりですが、改善するためには、人の生活の利便性（除草剤散布等）と樹木の生活環境をうまく共生さす事が重要です。（費用対効果）

今後の状況により、改善工事等が必要になる場合、特に細かい所に注意項目もありますので改善の為の施工先等手配等についてご相談に応じます。又、必要に応じて施工計画書（概算見積書）を作成しますので申しつけ下さい。

可能な範囲で衰退要因を取り除いて家族の一員でもあるマツを大切に護ってやってください。

以上

## 貼付資料

### 1. マツノマダラカミキリ防除（薬剤散布資料）